

ポスター | 1-13 術後遠隔期・合併症・発達

ポスター

フォンタン循環（低心拍出）

座長: 鷗内 伸二 (兵庫県立尼崎病院)

Sat. Jul 18, 2015 11:26 AM - 11:56 AM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

III-P-076~III-P-080

所属正式名称: 鷗内伸二(兵庫県立尼崎病院 小児循環器科)

[III-P-077]フォンタン循環における fenestrationの役割

○福見 大地¹, 大橋 直樹¹, 西川 浩¹, 大森 大輔¹, 江見 美杉¹, 山本 英範¹, 櫻井 一², 山名 幸治², 野中 利通², 櫻井 寛久², 大塚 良平² (1.中京こどもハートセンター 小児循環器科, 2.中京こどもハートセンター 心臓外科)

Keywords: フォンタン, 左心低形成, 無脾

<背景>フォンタン手術適応を考えるうえで、肺静脈狭窄合併、心機能低下症例では術後合併症が懸念される。当院では主心室が右心室となり、フォンタン到達率が低くなるHLHSと肺静脈狭窄が問題となるaspleniaのフォンタン症例では2013年以降全例に fenestration(f-TCPC)を作成している。TCPC手術は2009年~2014年の6年間で62例行われており、うち f-TCPCは14例であった。2009~2012年は0例(2006年~2009年でも2例)であった。その内訳は HLHS8例、 asplenia5例であった。HLHSは2009年以降11例が TCPCに到達し、 failed Fontan症例はみられないが、治療戦略の変遷の影響があり検討が難しいと判断し、今回 aspleniaを対象に f-TCPCの短期予後を検討した。<対象・方法>対象は2009年~2014年の6年間、aspleniaにて TCPCを行った11例。内訳は f-TCPC (f群) 5例と fenestration- (t群) の6例であった。TCPC術後経過、術後カテーテル検査結果を(術後初回1~3か月)を後方視的に比較検討した。両群間のフォンタン術前 PA圧、AVVRの程度には有意差は認めていない。<結果> f群では3.5mm~5mmの fenestrationが作成されたが2/5例は閉鎖が確認された。最終開存ある F 群3例と閉鎖した2例を加えた T 群8例に変更して検討した。抜管日 F0.7T3.8術後ドレーン留置日数 F4T8.5 術後退院日数 F29.0T31.6肺動脈圧 F12T13.1 Rpl F1.70 T1.94 SpO2F84..0 T94.3<考察>症例検討数が少なく、統計学的有意差は認めない。術後横隔神経麻痺や乳び胸でドレーン留置日数や退院日数は大きく影響を受けているものの F 群は循環、術後経過ともに T 群を上回っていると思われる。< limitation> fenestrationのサイズ閉塞の時期、タイミング、方法、症例の選択方法は今後の検討が必要である。<まとめ> f-TCPCは aspleniaや HLHSのフォンタン到達率の改善、 failed fontan症例の減少に寄与することが期待される。